Support Us

安心の医療を、ともに創る。皆さまのご寄附が力になります。

千葉興業銀行様より、ちば興銀SDGｓ私募債を通じて当院へご寄附をいただきました。これは、千葉県酒類販売株式会社様の「地域医療に役立ててほしい」という思いによるものです。7月28日（月）には、寄贈式を行いました。

近年、光熱費や物価の高騰、人件費の増加により、病院経営は厳しい状況にあります。しかし、私たちは患者さんへの「快適な診療環境」、高度医療に必要な「医療機器・設備」、そして専門性を高める「医療者の研修環境」の整備を止めることはできません。皆さまからの貴重なご寄附・ご遺贈は、病院の運営を直接支え、患者さんへのより良い医療提供へと繋がります。未来の医療のために、引き続き温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

（写真左から）株式会社千葉興業銀行・尾關邦斗本店営業部長、千葉県酒類販売株式会社・髙山和夫代表取締役社長、大鳥病院長、小山田事務部長、千葉県酒類販売株式会社・飯沼喜規相談役

message

予約サービス（WEB・ナビダイヤル）で 24時間いつでも簡単予約・診断書確認

初診予約、予約変更（**やむを得ない場合のみ**）の申し込み、予約確認、診断書・証明書作成状況確認が、WEBまたはナビダイヤル（専用電話）で24時間いつでも可能になりました（一部診療科を除く）。

WEB「Medical Avenue」

予約についてはこちら
https://chiba.hive.fittingcloud.net/

診断書確認はこちら
https://med-certificate.fittingcloud.net/chiba-u

ナビダイヤル（専用電話）

0570-022-489（音声自動案内）

利用の前に

- 初診予約と予約変更は、お申し込みから予約確定まで日数を要します。余裕を持ってお申し込みください。
- 「申込完了メール」受信後、約2週間以内（休診日除く）に予約担当者からメールまたは電話でご連絡します。
- 予約変更、予約確認の際のナビダイヤル利用は、病院に登録している電話番号からお電話ください。

一部の診療科は対象外です。ご利用前に必ず当院ホームページ「各診療科・部門の初診受付」をご確認ください。

cover 今号の表紙

「縁の下の力持ち」

私たちは、入院患者さんの請求書作成や、医療機関から保険組合などへ送る「レセプト（診療報酬明細書）」の作成・請求、入院費のお問い合わせ対応などを担当しています。高度医療を担う大学病院として、医療に関する深い知識と正確な処理スキルが不可欠です。医師や病棟スタッフと密に連携し、「適正な保険請求」を追求しています。
皆さまに信頼される医療スタッフとして、質の高い業務に取り組みます。
医療費についてご不明な点があれば、お気軽にご相談ください。

膨大な点数表を前に、正確な医療費請求を協議する医事課スタッフ

［発行］千葉大学医学部附属病院
〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL：043-222-7171（代表） Mail：byoin-koho@chiba-u.jp

千葉大学病院ホームページ
https://www.ho.chiba-u.ac.jp/
※バックナンバーをご覧いただけます

CARBON ZERO PRINT
この印刷物は、SCOPE1とSCOPE2の温室効果ガスをゼロにした工場で印刷しています。

本誌に掲載されている内容の無断転載、転用および複製等の行為はご遠慮ください。

TAKE FREE
ご自由にお取りください

いのはなハーモニー

Harmony

75
2025.SEP.

特　集　**がんゲノム医療**　／　CLOSE-UP　**脳神経外科の挑戦**

医事課スタッフ（詳細は裏表紙へ）

千葉大学病院
CHIBA UNIVERSITY HOSPITAL

特集

がんゲノム医療

遺伝子の変化に着目して検査を行い、エキスパートパネルで治療方針を決めます

がんは、遺伝子の変化が原因で起こる病気です。遺伝子は、すべての遺伝情報（ゲノム）のうち、私たちの体を作っているタンパク質の設計図となる部分です。その設計図に変化が生じ異常なタンパク質が作られると、がんとなります。遺伝子の変化は患者さんごとに異なり、そこに着目したのが、がんゲノム医療です。当院では、遺伝子の変化を一度に複数調べることができる「がん遺伝子パネル検査」を行い、専門職会議「エキスパートパネル」で分析します。患者さんのがんの特徴（遺伝子の変化）に合わせて治療法を検討し、副作用が少なく、より効果が高い治療につなげています。

遺伝子情報（DNAの塩基配列）

A（アデニン）、T（チミン）、G（グアニン）、C（シトシン）

遺伝子の変化（人によって異なる）

4つの物質が欠けたり、増えたりして並びが狂うと体内で正しい働きができず、病気の原因になる

がんゲノムセンター

薬の提案や説明を行い、治療方針の決定をサポートします

病理部

がんの病理診断や検体の確認、遺伝子の解析を行います

薬剤部

薬の副作用や入手の可否について情報を提供します

検査部

検体の管理や検査、結果解析の技術支援を行います

遺伝子診療部

遺伝子の変化の医学的な解釈を行い、評価や説明をします

腫瘍内科

複数の臓器にわたるがん治療方針の検討をリードします

主治医

患者情報を説明し、検討結果をもとに治療方針を決定します

主治医をはじめ、各分野のエキスパートたちが遺伝子の変化に基づく治療法の道を探る！

がんの治療法がみつからない

Q. 新しい治療法とは？

近年、遺伝子の変化の特徴に基づいた新薬が続々と登場しています。肺がん、胃がんなど臓器別に行っていた従来の治療法では効果が出なかった患者さん、治療法が見つからないがんの患者さんにとって治療法の選択肢が広がっています。

STEP.1
「がん遺伝子パネル検査」を主治医から提案します

Q.「がん遺伝子パネル検査」って？

がんの遺伝子にどのような変化が生じているかを調べ、異常なタンパク質（分子）を標的とする「分子標的薬」を検討します。正常な細胞への影響が少なく、副作用を軽減できる可能性があります。

STEP.2
患者さんの検体を採取して検査します

生検や手術などで採取したがんの組織を外部の検査機関に送り検査します。

Q. どんな検査をするの？

「次世代シーケンサー」という解析装置で一度に大量のゲノム情報を高速で読み取り、パネル（遺伝子のセット）に含まれる多数の遺伝子を同時に調べます。従来の1種類だけの検査ではわからなかった変化が見つかることがあります。

STEP.3
「エキスパートパネル」で治療方針を検討します

検査をもとに、当院の専門職が集まり、治療方針を検討します。この会議を「エキスパートパネル」と呼びます。

STEP.4
主治医が治療方針を決め、患者さんに説明します

検査結果は…

治療方針は…

治療の開始へ

当院は厚生労働省に指定された「エキスパートパネル実施可能がんゲノム医療連携病院」です。がん遺伝子パネル検査は、標準治療を終える方や標準治療が確立されていない方が保険診療で受けることができます。どうぞ主治医にご相談ください。

がんゲノムセンター
金田篤志センター長

Q. 遺伝子の変化に基づいた治療につなげられないこともありますか？

残念ながら現状ではその可能性の方が大きくはありますが、推奨する治療法が見つかることがだんだん増えています。たとえ推奨薬剤が見つからなくても、遺伝子の変化の組み合わせを知ることは、主治医にとって患者さんの病気をより深く理解し、次の治療提案に役立つものと考えています。

CLOSE-UP

脳神経外科
一歩ずつ、「できる」を広げて
の挑戦

見えないけれど、生きるすべてを支えている「脳」。その複雑な世界に挑み続けるのが、私たち脳神経外科です。脳機能を“守る”だけでなく、“取り戻す”医療へ。多職種チームが協力して「できる」を広げ、血栓回収術や覚醒下手術など低侵襲で術後のQOLにも配慮した高度医療の提供に努めています。

脳神経外科 科長
樋口 佳則 教授

脳神経外科では、脳卒中や脳腫瘍、パーキンソン病など、多様な脳の病気に対応しています。
頭蓋底外科、内視鏡、機能的脳神経外科、脳腫瘍、血管外科、脳血管内治療、脊髄外科の7つの専門グループがあり、それぞれの分野の医師が連携して診療にあたっています。脳卒中ケアユニット（SCU）が2023年6月より稼働し、今後の超高齢化に伴う脳血管障害患者さんの増加に対応しています。また、若手医師が知識や技術を着実に学び、働きやすい環境の中で経験を積めるような体制づくりにも力を入れています。
脳はとても複雑な臓器で、まだわかっていないことも多くありますが、「できること」が少しでも増えるよう、あきらめずに向き合う姿勢を大切にしながら、チーム一丸となって取り組んでいます。脳に関して不安なことがあれば、どうぞご相談ください。

脳ってすごく不思議で奥深いんですね！

命のバトンを確実に

救急×SCU

脳卒中は発症直後の対応がカギ。救急科と連携し、スムーズな受け入れと早期治療を行っています。

専門医と多職種チームが連携し、毎日のカンファレンスで情報を共有。重症から軽症まで、質の高い治療を迅速に提供しています。

脳疾患の治療が、いま大きく進化中！

脳と脊髄・神経を守るために、高度な医療を提供し、
体にやさしく、安心して受けられる治療に努めています

01 脳梗塞をすばやく治療する「血栓回収術」

脳梗塞は、脳の血管が詰まり、血の流れが止まってしまう病気。血栓回収術は、カテーテルを使って詰まった血管の中から血栓を取り除く、体にやさしい治療法（低侵襲）です。頭を切らずに行えるうえ、発症から時間が早ければ、後遺症の軽減も期待できます。この治療を担当するのは、当院の脳血管内治療グループ。2024年度には42件の血栓回収術を行い、専門資格を持つ医師が対応しています。経験を活かし、チームで迅速かつ丁寧な治療を心がけています。

脳神経外科
田島 洋佑 医師

02 話す・動くを守る。「覚醒下手術」

かくせいかしゅじゅつ
覚醒下手術は、意識がある状態で脳のさまざまな働きを患者本人に確かめながら、安全に脳腫瘍を取り除く手術です。脳神経外科医、麻酔科医、看護師、リハビリテーションなどの専門チームが協力し、言葉を話す・手足を動かすなどに加え、思考や判断、記憶といった複雑な脳機能も守ります。年間およそ50件の神経膠腫（グリオーマ）手術のうち、約半数で覚醒下手術を実施。病変の拡大切除を目指しつつ、必要に応じてがんパネル検査による詳細な解析も行います。

脳神経外科
廣野 誠一郎 医師

03 高精細モニターで見ながら治す「鏡視下手術」

鏡視下手術は、高画質カメラの映像をモニターで見ながら行う脳の手術です。複数の医師が同じ映像を共有できるため、細かな操作が求められる場面で活用されています。鏡視下手術には、内視鏡と外視鏡の２種類があります。脳外科では、胃カメラのように曲がるタイプではなく、まっすぐで鮮明な映像が得られる内視鏡を使い、昨年はこの方法で約100件の手術を行いました。外視鏡は、映像を拡大表示して使う、顕微鏡の代わりとなる、新しい手術機器です。

脳神経外科
堀口 健太郎 医師

04 脳の機能を改善させる「ニューロモジュレーション」

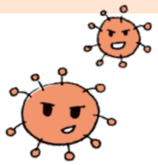
脳や脊髄に電気で刺激を与え、パーキンソン病やふるえ、痛み、てんかんなどの症状をやわらげる治療法です。複数の診療科が連携しながら、患者さんの状態に合わせて行っています。

ニューロモジュレーションとは、神経刺激装置を使い、電気の力で神経の働きを整える治療です。

なんでもQ&A「カビの病気」

人間が住みやすい場所は
カビにとっても住みやすい。
カビを見つけたら
「ふき取る・洗い流す」が基本です。

感染症内科 真菌症専門外来
亀井克彦 医師



**カビのシーズンは梅雨だけではありません。
蒸し暑い日が続く秋も、カビによる
健康被害に注意が必要です。**

── カビが原因で病気になることはありますか？

はい、あります。食中毒など、カビ毒による中毒はわかりやすいですが、「アレルギー」や「感染症」は目に見えにくい部分で起こるのでわかりにくいかもしれません。

── どんなアレルギーですか？

有名なのは「夏型過敏性肺炎」です。「トリコスポロン」というカビが家の中、特に水回りに生え、その胞子を吸うことで発症します。高温多湿となる6月から10月頃に患者さんが増え、10月を過ぎると自然に減っていきます。アレルギーは本人の体質によるので、誰にでもなる可能性があります。

── 感染症になる人もいるんですね？

感染症になりやすいのは、体力が落ちてしまった方、肺にもともと持病がある方、あるいはステロイドなど免疫を抑える薬を使っている方、タバコをたくさん吸う方などです。

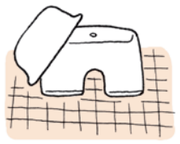
── 病気の症状は？

アレルギーも感染症も、症状としては喉の不調や微熱などが続くのが特徴です。

── お風呂場などで見るピンク色のカビも病気の原因になりますか？

はい、ピンク色のカビは「ロドトルラ」といって、アレルギーの原因になります。以前、加湿器の中にこのカビが生えてしまい、それを使ったことでひどい咳が出るという「過敏性肺炎」の事例がありました。

咳が２～３週間続く場合は何かしらの病気が疑われるので、一度呼吸器内科を受診してください。



── どうすればカビの発生を防げますか？

カビは人間と同じように、生きていくために水・食料・空気を必要とします。カビの食料は人間にとってのゴミや汚れです。そのため、それらをカビに与えないように、除湿・掃除・換気を行うことがカビの発生の予防につながります。

カビが発生したら「ふき取る・洗い流す」ことが基本ですが、その際にアルコールや次亜塩素酸などを用いてカビを死滅させることが大切です。燻蒸するタイプの製品は天井まで届くので、お風呂場で使うのにおすすめです。

── 最後に、真菌症専門外来の強みを教えてください

当院は国内で初めて内科として真菌症専門外来を設置しました。皮膚科で真菌症（水虫）の専門外来を設けているところはありますが、内科での真菌症専門外来は今でもきわめて珍しいと思います。

当院の強みは、診断に必要な検査体制が非常に充実していることです。真菌症の診断において「できない検査はない」をモットーにしていますので、他の病院では診断や治療の難しかった真菌症がこの病院に来ていただいて初めて解決する、ということもしばしばあります。

これは同じ亥鼻キャンパスにある「真菌医学研究センター」と協力して診療を行っているためで、患者さんは県内はもちろん、北海道～九州まで及んでいます。

ちばだいクイズ

Q.
**マイナンバーカードで
受付をする時に必要なのは？**

❶ マイナンバーカードのみ
❷ マイナンバーカードと保険証
❸ マイナンバーカードと保険証と診察券

答えは❶です。

受付でマイナンバーカードを使えば、保険証や診察券なしで受診できます。保険証としての登録（紐づけ）も当院受付機で可能。その場で資格確認が完了します。カードが減って受診もスムーズになるのがマイナ保険証の利点です。

※保険証・公費受給者証との一体化は自治体により異なります。詳細は各自治体へ。

いのはなINFORMATION

01

千葉大学病院と千葉市立青葉病院は「医療連携協定」を締結しました

当院ではこれまで病床が満床になると、救急患者の受け入れが難しいケースがありましたが、今回の協定により、当院で処置した救急患者を、市立青葉病院へ円滑に転院できるようになりました。これにより当院は、病床の確保が可能になり、より重篤患者の治療に注力できます。これからも地域の医療機関との連携を深め、より質の高い医療を提供してまいります。

5月8日、協定を結んだ千葉市の神谷俊一市長（左）と大鳥病院長

02

木田選手（中央右）とサイン入りアップウェアを手にする大鳥病院長。チームドクターの木村青児医師（左端）と富田啓介医師（右端）

B1昇格したアルティーリ千葉の木田選手が来院

6月4日、当院と医療支援に関する協定を結んでいるプロバスケットボールクラブ「アルティーリ千葉」の木田貴明選手から、Bリーグ2部（B2）での初優勝およびB1昇格のご報告をいただきました。木田選手は「ようやく昇格と優勝ができてうれしい」「B1でも優勝をしたい」と語りました。今後のご活躍を心より応援しています。

03

©2025「フロントライン」製作委員会

撮影のため外来診療棟ロビーが保護シートで被われました！

映画「フロントライン」に撮影協力しました

小栗旬さん主演の映画「フロントライン」に当院の外来診療棟ロビーが使用されています。ダイヤモンド・プリンセス号を舞台に、医療従事者たちの闘いを事実に基づいて描いた映画です。当院のDPAT（災害派遣精神医療チーム）も当時、横浜港の現場で乗客・乗員への緊急のメンタルヘルス支援などを行いました。

04

産科・婦人科 甲賀かをり科長が受賞 内閣府「女性のチャレンジ賞」

産科・婦人科の甲賀かをり科長（教授）が、内閣府の「令和７年度女性のチャレンジ賞」を受賞しました。この賞は、多様な分野で活躍し、挑戦する女性を応援するために贈られます。甲賀科長は、産婦人科医として診療、若手医師の育成や研究に尽力する傍ら、2012年に日本子宮内膜症啓発会議を設立し、副理事長として啓発活動や政策提言に取り組んでいます。

05

小児病棟で劇団四季・宝塚歌劇団出身の俳優らがミニ公演を開催

劇団四季・宝塚歌劇団の出身俳優を中心とするパフォーマンス団体「心魂（こころだま）プロジェクト」の４名が小児病棟で公演を行いました。入院する子どもたちは、感情豊かな歌声や演技に初めて触れ、「声がきれいだった」「ダンスを目の前で見たのは初めてで、とても楽しかった」などと語りました。